

児が NICU に入院中の母乳育児支援に対する母親の思いに関する文献レビュー
Literature review of mothers' feelings about breastfeeding support while their child
is in the neonatal intensive care unit

奈良県立医科大学大学院看護学研究科

附田紗英 乾つぶら 五十嵐稔子

Graduate School of Nursing, Nara Medical University

Sae Tsukuda, Tsubura Inui, Toshiko Igarashi

奈良県立医科大学附属病院総合周産期母子医療センター

谷有貴 西久保敏也

Nara Medical University Hospital General Perinatal Medical Center

Yuki Tani, Toshiya Nishikubo

目的:児が NICU に入院中の母乳育児支援や NICU 環境に対する母親の思いを、関連する文献から整理し、母乳育児が継続できる支援の方策を検討する。方法:医中誌 Web、PubMed、CINAHL を用いて、キーワードから質的研究の文献検索を行った。対象 12 文献から、児が NICU に入院中の母親への支援に関する母親の思いを分析した。結果:【母親役割を認めてもらいたい】【周囲に支えられる】【励ましや気遣いによる苦しみ】【家族の母乳育児への関心が必要】【孤独を感じる】【専門的な支援が必要】【周囲からの情報が役に立つ】【情報が交錯し、不安になる】【リラックスして搾乳したい】の 9 のカテゴリが抽出された。結論:1. 児が NICU に入院中の母親の母親役割肯定に、周囲の母乳育児支援や関わりが影響していた。2.母親の家庭状況や価値観、文化的背景によって、母乳育児支援や授乳環境の受け取り方が異なっていた。3.医療者からの母乳育児必要性の情報に混乱する思いが抽出され、情報提供方法の改善と母親自身の情報リテラシーの重要性が示唆された。

キーワード:NICU、母乳育児、思い、サポート、文献レビュー

Objective: This study aimed to examine support measures for continuing breastfeeding by analyzing excerpts from the literature on mothers' feelings about breastfeeding support while their child is in the neonatal intensive care unit (NICU) and about the NICU environment. Methods: Ichushi Web, PubMed, and CINAHL were used to conduct a literature search of qualitative research based on key words. The 12 papers found were analyzed for mothers' feelings about support for breastfeeding while their child is in the NICU. Results: Nine categories were identified: "Mothers want others to recognize maternal role"; "Mothers are supported from others"; "Mothers suffer due to encouragement and concern from others"; "Mothers need their family members' interest in the breastfeeding"; "Mothers feel lonely"; "Mothers feel they need professional support"; "Information obtained from other people is useful to mothers"; "Mothers become anxious when information is mixed"; and "Mothers want to breast pump in relaxed." Conclusions: 1) Support and care from other people has a large influence on the continuation of breastfeeding by mothers whose child is in the NICU. 2) Mothers perceived the same breastfeeding support and breastfeeding environment differently depending on their home situation, values, and cultural background. 3) Examples of mothers feeling confused by information about the need for breastfeeding from medical professionals were extracted from the literature, which suggests the importance of improving how information is provided and the importance of mothers' own information literacy.

Key words: NICU, breastfeeding, thoughts, support, literature review

I. 緒言

1989年にWHO/UNICEFが母乳育児推進の政策として、「母乳育児を成功させる10か条」を発表し、日本においても、2015年に21世紀の母子保健の主要な取組を提示するビジョンである「健やか親子21」の主要課題の1つとして、「子どもの安らかな発達の促進と育児不安の軽減」が掲げられている(厚生労働省,2015a)。また、厚生労働省の乳幼児栄養調査によると、2015年度の生後1か月の栄養法として母乳栄養を挙げた割合は51.3%にのぼり、10年前と比較して8.9%の増加が認められている(厚生労働省,2015b)。

このことは、母乳栄養への意識が高まり、わが子を母乳栄養で育てたいと考える妊産婦の増加を示している。また、新生児集中治療室(Neonatal Intensive Care Unit: NICU)においても入院した新生児のための母乳育児支援ガイドラインが2010年に作成され、「看護師は、すべての新生児が母乳で育てられるよう、特に、NICUに入院した新生児とその母親に対しても、一定水準の専門知識と技術を用いて、母乳育児を開始、継続できるよう支援する責任がある」(日本新生児看護学会,2010)と述べられ、NICUにおける母乳育児支援の責務が示されている。

しかし、NICUに入院中の児は、重篤な疾患、早産や低出生体重が多く、人工呼吸管理などの医療的介入から母児分離を余儀なくされ、母乳栄養を希望していても直接授乳は行えず、搾乳による経管栄養を実施する機会が多い。超低出生体重児を出産し搾乳中の母親の思いの先行研究では、母親は小さく産んでしまったという子どもへの負い目を感じ、母乳を与えることが母親としての務めであるという自責と責務の思いを抱きながら搾乳を行っていることが示されている(室津ら,2013)。母乳育児への意欲をもちながらも、継続的な母乳分泌に必須の吸啜刺激の不足という医学的要因から搾乳を続けることの困難さをも感じており、母乳育児による理想と現実のギャップから抑うつ感を生じていることが考えられる(種

池ら,2018)。さらに、低出生体重児を出産した母親の母乳育児への思いの研究では、母親は産後の不安定な心理状態から揺れ動く思いの中で、周囲からのサポートによって、怒りや不満を感じることもあれば、心強さや安堵感、救われる思いを感じることもあると述べられている(荒木ら,2015)。このように、母乳育児の希望があっても成熟児とは異なりNICUでの母乳育児は継続が難しく、加えて周囲から受ける精神的影響も大きいと考えられる。

そこで、本研究では、児がNICUに入院中で母子分離にある母親の母乳育児支援を推進するために、母親の周囲のサポート環境への思いに焦点を当て、文献レビューを行うこととした。

II. 研究方法

研究デザイン: 文献レビュー

データ収集: 医中誌 Web、PubMed、CINAHLを用い、キーワードから該当論文を検索した。抽出された各文献の質は JBI の Critical Appraisal Checklist for Qualitative Research(JBI,2020)に基づき、2名で評価した。

分析方法: 対象文献から、児がNICU入院中で母乳育児をしている母親への周囲の支援と環境への思いについて内容分析を行った。

用語の定義: 本研究における母乳育児とは、児がNICU入院中の母親が自母乳で児を育てる行為すべてとした。直接授乳、搾乳(瓶哺乳、経管栄養による母乳の注入)を含む。

III. 結果

文献検索の結果、医中誌 Web28件、PubMed92件、CINAHL131件の文献が抽出された。結果を表1に示す。合計251件から、重複文献を除き、タイトル、抄録、本文を参考に12件の文献を抽出した。この文献抽出のプロセスを図1に、対象文献の概要を表2、対象文献の質の評価の結果を表3に示す。なお、分析対象となった文献の対象はすべて、重度の合併症のない児の母親であった。

表 1 検索式

データベース	キーワード	OR	AND
医中誌 Web	#1(新生児 ICU) or (新生児集中治療室) or (未熟児) or (早産児) or (低出生体重児)	64,737	28
	#2 (母乳栄養) or (母乳育児)	13,356	
	#3 (語り/体験) or (感情/思い) or (困難)	283,411	
	#4 (質的) or (インタビュー)	78,842	
PubMed	#1(breastfeeding) or (milk, human) or (lactation)	140,144	92
	#2 (intensive care units, neonatal) or (infant, premature) or (infant, low birth weight)	131,674	
	#3 (experience) or (narrative) or (emotion) or (feelings) or (difficulties)	1,442,240	
	#4 (interview) or (qualitative)	472,345	
CINAHL	#1 (breastfeeding) or (milk, human) or (lactation)	32,837	131
	#2 (intensive care units, neonatal) or (infant, premature) or (infant, low birth weight)	41,559	
	#3 (experience) or (narrative) or (emotion) or (feelings) or (difficulties)	505,438	
	#4 (interview) or (qualitative)	382,252	

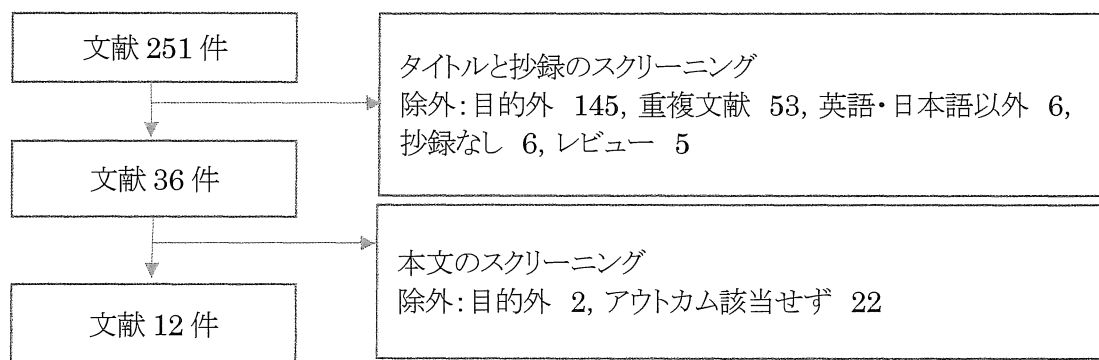


図 1 分析対象の文献抽出のプロセス

表 2 対象文献の概要

文献 No.	著者名, 発行年	研究目的	対象者
1	岡田他, 2017	NICU に入院中の早産児で低出生体重児をもつ母親が抱く搾乳継続に対する思いを明らかにする	NICU に入院中の早産児で低出生体重児の母親で、搾乳を継続している母親 9 名
2	佐々木, 2016	長期的に搾乳継続する母親が抱く入院中から退院後にかけての心理を明らかにする	在胎週数が 35 週未満または出生時体重が 2300g 以下であり新生児室へ入院となった児の母親 3 名
3	谷崎他, 2015	超低出生体重児の母親が長期搾乳を継続していく中で抱く思いを明らかにする	A 病院に入院している超低出生体重児の母親で長期搾乳を行っている母親 10 名
4	田中他, 2014	早産児を出産した母親の母乳育児をとめた思いを明らかにする	A 病院において在胎週数 23-28 週の早産児を出産した母親 4 名
5	亀山他, 2013	直接授乳困難に陥っている低出生体重児を出産した母親の気持ちを明らかにし NICU における母乳育児支援の方向性の示唆を得る	母乳育児の継続意思があり、直接授乳困難に陥っている低出生体重児の母親 2 名
6	西岡他, 2012	児が NICU に入院中の搾乳に関する母親の思いや心理状況を明らかにする	院内で妊娠管理・分娩し、NICU に入院した早産児の母親 9 名
7	高橋他, 2012	早産児の母親が、搾乳を継続する過程で直面する困難と、早産児の母親の搾乳継続を支えた要因を明らかにする	在胎週数 30 週未満で出生した NICU に入院中の児の母親 5 名
8	立木他, 2011	Late Preterm 児を出産した母親の、授乳や育児の困難やそれらを乗り越えるのに影響した要因について明確化する	総合周産期母子医療センターにおいて Late Preterm で出産した母親 3 名
9	和田他, 2008	早産児を出産した母親への母乳育児支援を考えるため、母親の児への思いと母乳育児への思いを明らかにする	NICU に入院した早産児の母親 3 名
10	Fernández Medina et al., 2019	The aim of this study was to describe and understand the experiences of mothers of extremely preterm infants regarding barriers to providing their own milk during infant hospital stay in the neonatal intensive care unit (NICU).	Participants were selected using a convenience sampling technique among mothers of extremely preterm infants who were admitted to a level III NICU in the southeast of Spain.
11	Yang, Yuanyuan et al., 2019	The aim of this study was to develop an understanding of mothers' experiences breastfeeding a hospitalized preterm infant and the support needed to establish a milk supply during the period separation from their infants.	A total of 11 mothers of preterm infants admitted to three level III Beijing NICUs were recruited in 2017.
12	LoVerde B et al., 2018	Our objective was to qualitatively describe the experiences of AA (African American) mothers providing MOM (mother's own milk) to their VLBW infants and to determine strategies aimed at improving the provision of MOM in this specialized population.	Purposive sampling was utilized to identify a heterogeneous study population of AA mothers of VLBW (very low birth-weight) infants in the NICU who provided MOM for any duration of their infant's hospitalization.

表3 文献の質の評価

著者名,発行年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
岡田他,2017	Y	Y	Y	Y	Un	Un	Un	Y	Y	Y
佐々木他,2016	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Na	Y	Na	Y
谷崎他,2015	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Y	Y	Y	Y
田中他,2014	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Y	Y	Y	Y
亀山他,2013	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Y	Y	Y	Y
西岡他,2012	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Na	Y	Y	Y
高橋他,2012	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Y	Y	Y	Y
立木他,2011	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Y	Y	Y	Y
和田他,2008	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Y	Y	Na	Y
Fernández Medina et al.,2019	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Y	Y	Y	Y
Yang, Yuanyuan et al.,2019	Y	Y	Y	Un	Y	Un	Y	Y	Un	Y
LoVerde B et al.,2018	Y	Y	Y	Y	Y	Un	Y	Y	Y	Y

Y:Yes N:No Un:Unclear Na:Not application

1.Is there congruity between the stated philosophical perspective and the research methodology? 2.Is there congruity between the research methodology and the research question or objectives? 3.Is there congruity between the research methodology and the methods used to collect data? 4.Is there congruity between the research methodology and the representation and analysis of data? 5. Is there congruity between the research methodology and the interpretation of results? 6.Is there a statement locating the researcher culturally or theoretically? 7.Is the influence of the researcher on the research, and vice-versa, addressed? 8.Are participants, and their voices, adequately represented? 9.Is the research ethical according to current criteria or, for recent studies, and is there evidence of ethical approval by an appropriate body? 10.Do the conclusions drawn in the research report flow from the analysis, or interpretation, of the data?

児が NICU 入院中で母乳育児をしている母親への周囲の支援と環境への思いについて、対象文献から分析を行った結果、88 のコードが抽出された。そのコードを用いてカテゴリ化を行った結果、36 のサブカテゴリと9 のカテゴリが抽出された(表 4)。

以下、カテゴリを【】、サブカテゴリを<>で示す。文献から、周囲の人として、医療者、夫や実母等家族、同じ境遇の母親があげられた。

(1)【母親役割を認めてもらいたい】

<母親として認めてもらえてうれしい>など周囲から母親としての自己承認を得る、<周囲に母乳で育てている人がいる>とロールモデルの存在を見つけることで、自身の母親役割を肯定していた。また、母子分離のため周囲から育児中の母親とは認識されにくいことから<直接授乳できないことで周囲に母親と認めてもらえない><他の児や成熟児を出産した母親と比べて母親らしいことができていない>と自身を母親失格と感じていた。

(2)【周囲に支えられる】

<周囲が励まし、気遣ってくれる>など周

囲の支えや気遣いを実感し、励まされる思いがあった。また、<家族が傍にいてくれる>と家族の存在に励まされていた。

(3)【励ましや気遣いによる苦しみ】

「母乳の分泌量が少ない」などの言葉をかけられることで、<母乳が出ないことを責められる>などの思いがあった。医療者の特別の配慮に対する<気遣いがつらい>などの思いが抽出された。医療者がミルクを哺乳瓶で児に飲ませる姿を目の当たりにし、<母乳が出ない自分に負い目を感じる>思いがあった。

(4)【家族の母乳育児への関心が必要】

夫や家族が<母乳育児に興味をもって理解してくれる>という実感を得る一方で、<夫が母乳育児に無関心である>、家族から<母乳で育てないように言われる>と、母乳育児をしたい思いを周囲に尊重してもらえないと感じていた。

(5)【孤独を感じる】

<社会とのつながりの希薄さを感じる><誰にも頼らず、一人で搾乳する>など孤独な思いが特に国内の文献から多く抽出された。

表4 母親の周囲のサポート環境への思い

カテゴリ	サブカテゴリ
母親役割を認めて もらいたい	母親と認めてもらえてうれしい 母乳が児にとって良いものと言ってくれる 周囲に母乳で育てている人がいる 直接授乳できないことで周囲に母親と認めてもらえない 他の児や成熟児を出産した母親と比べて母親らしいことができていない
周囲に支えられる	周囲が励まし、気遣ってくれる 周囲に相談することで前向きになる 周囲が支えてくれる 家族が傍にいてくれる
励ましや気遣いによ る苦しみ	母乳が出ないことを責められる プレッシャーを感じる 励ましにいら立つ 気遣いがつらい 母乳が出ない自分に負い目を感じる
家族の母乳育児へ の関心が必要	母乳育児に興味をもって理解してくれる 夫が母乳育児に無関心である 母乳で育てないように言われる
孤独を感じる	社会とのつながりの希薄さを感じる 誰にも頼らず、一人で搾乳する 母乳で育てている人が周りにいない
専門的な支援が 必要	医療者の支援を受けてがんばる 医療者の支援が欲しい 医療者を信じる 医療者が忙しすぎて、個別の支援がもらえない 医療者の企画した教室やビデオ、本が役に立つ
周囲からの情報が役 に立つ	母乳育児の情報を得て前向きに取り組む インターネットで情報を得る
情報が交錯し、不安 になる	母乳育児について学習する余裕がなかった ほしい情報を得られない 母親の思いに添わない不必要な情報により不安になる 情報が統一せず混乱する
リラックスして搾乳 したい	プライバシーの確保された空間でリラックスして搾乳する 搾乳のための場所があり、ありがたい 静かな環境やプライバシーが必要 好きな時間に授乳したい 家で落ち着いて搾乳できない

(6)【専門的な支援が必要】

<医療者の支援を受けてがんばる>と医療者の技術支援を受けて自信を得ていた。また、<医療者が忙しすぎて、個別のアドバイスがもらえない><医療者の企画した教室やビデオ、本が役に立つ>など専門職から発信される情報を期待していた。

(7)【周囲からの情報が役に立つ】

<母乳育児の情報を得て前向きに取り組む>など母乳育児の役に立つ情報を得られ

ていると感じていた。

(8)【情報が交錯し、不安になる】

<ほしい情報を得られない>思いがあった。また、気分が沈んでいるときに<母親の思いに添わない不必要な情報により不安になる>など医療者からの情報に困惑していた。

(9)【リラックスして搾乳したい】

NICU の環境について国外ではくプライバシーの確保された空間でリラックスして搾乳する>一方で、国内ではく静かな環境やプ

プライバシーが必要>などの思いがあった。また、<家で落ち着いて搾乳できない>とリラックスして搾乳できない思いも抽出された。

IV. 考察

対象文献から、母乳育児に焦点をあて、児が NICU に入院中の母親の周囲のサポート環境への思いの分析を行った。12 件のインタビュー調査をまとめた結果、9 のカテゴリが抽出され、母乳育児支援が早産児を出産した母親役割の肯定に影響することが示唆され、同じ支援でも母親により受け止め方が異なる事が明らかになった。母親役割の肯定、授乳環境と支援への思い、情報リテラシーについて、以下に考察する。

(1) 母親役割の肯定

周囲から母親承認を得る、母乳育児希望の母親にとって周囲からその思いを尊重されている、と実感できることが自身の母親役割の肯定につながっていた。先行研究では「早産体験の補完」として、母親の母乳育児を継続したい思いが明らかになっている(堤ら,2010)。NICU 入院児の母親はこのような「早産に伴う妊娠期間の達成感の不足」という潜在的思いを抱え、「わが子を自分の母乳で育てたい」という強い意志を持って母乳育児を行っていると考えられる。

一方、児が入院中の場合、母親は思い描いていた母親役割を遂行できず、母親役割を認識することは難しい。先行研究から、母親は母乳育児の過程で「周囲の存在を自己の支えとしていくこと」により母親としての自己を形成していることが明らかになっており(田中ら,2014b)、周囲からのマイナスの評価で、さらに母親としての「存在感」を見出しにくくなる。

本研究では、【孤独を感じる】のカテゴリは特に国内の文献から抽出された。西洋では自己は相互に独立したものととらえるが、日本をはじめ東洋では自己は他者と相互に依存し、結びついているという前提に立っており(岩崎ら,2005)、国外と比較し、日本人は周囲との

つながりに敏感で孤独を感じやすいと考えられる。また、この結果は、少子化問題や NICU 入院児の親の会や家族会が少ないことも影響していると推察される。

さらに、母親にとって、最も身近な存在である夫の搾乳への理解が大きく影響していた。先行研究より、「その場に子どもがいないので、搾乳時間に追われることに周囲が気づいてくれない」との思いがあり(室津ら,2013)、児が不在の家庭生活の中で周囲の理解を得るのが難しい現状が考えられる。本研究では、夫の母乳育児への理解についての思いは日本の文献で特にみられた。日本は諸外国と比較して夫の家事・育児時間が短い上、育児休業取得率も 7.48%と低く(厚生労働省,2020)、この日本人男性にとって父親として育児に参加する意義の認識の低さから、夫が母乳育児の重要性を理解し、NICU 入院中の児のために搾乳中の妻の思いを共有することは困難と考えられる。

以上のように、母親としての存在価値を認められることで、自己肯定感が高まり、授乳や育児の体験を前向きにとらえられる。また、児が NICU 入院中の場合、母親は育児行動の遂行が難しく、授乳を母親ができる唯一の育児行動ととらえ、搾乳や母乳育児に母親役割を見出している。周囲が母親の思いを尊重し、母親が母乳育児行動の中に母親役割を見出すことができるかかわりが大切である。

(2) 授乳環境と支援への思い

本研究では、支援やサポートに対して、励まされる思いと、つらく苦しい思いが抽出され、受け手の価値観や母親の置かれている状況により、抱く思いが異なることが示唆された。また、NICU の環境について、国外の文献ではプライバシーが「守られている」という思いが、国内の文献では「守られていない」という思いが抽出された。わが国の母乳育児確立の概念分析の先行研究で、「母子の環境要件」として、リラックスして授乳に取り組むことが抽出されている(山田ら,2017)。これらのことから、国内でも一部の施設で始まっている NICU の個

室化などリラックスできる搾乳環境の提供は重要と考える。さらに、国内外で異なる認識は、NICU の環境の違い以外にも、先に述べた文化的背景の違いの影響も大きいと推察される。

(3)情報リテラシー

周囲の友人、インターネットを通じて母乳育児の情報を得ているが、必要な情報を得られない思いもあった。また、専門職からの情報を得たい一方、不必要な情報や統一しない情報に混乱する思いも抽出された。従来、祖母や周囲の子育て経験者などから得ていた情報をインターネットなどから得るために、母親自身が情報リテラシーを確保することが重要になる。先行研究では、母親の情報リテラシーの認知度について「知っている」と答えた母親が 28.6%、「知らない」と答えた母親は 71.4%と高かったことが示されている(中島ら,2016)。これらのことから、母親自身の情報リテラシーを養うための医療者からの支援も必要であると考えられる。

(4)研究の限界と今後の課題

今回は主に重度の合併症のない児を対象とした文献が分析対象であった。重症の児を出産した母親の母乳育児支援に関する思いはさらに複雑であることが予測されるため、さらなる NICU の母乳育児支援の推進のために、対象の範囲を広げた検討が必要である。また、本研究では、文化的背景などの影響も示唆されたため、今後も国内外の文献検討を行うことが必要である。

V. 結語

1. 児が NICU に入院中の母親にとって、周囲から母親承認を得る中で母親役割を見いだす一方、周囲の評価から、母親役割を見出しにくくなるなど、周囲の支援やかかわりが母親役割の肯定に大きく影響していた。
2. 国内外で授乳環境や支援への異なる思いがあった。母親の価値観、文化的背景を踏まえて、医療者は母親のニーズや周囲とのかか

わりを考慮した支援提供を行うことが望ましい。

3. 母親は周囲の人や媒体を通じて母乳育児の情報を得ているが、必要な情報を得られていない思いや、専門職からの情報を求める一方、不必要な情報や統一しない情報に混乱する思いもあり、母親への情報提供方法の改善と母親自身の情報リテラシーが重要になることが示唆された。

利益相反

本論文内容に関連する利益相反事項はない。

謝辞

本研究に際して、貴重なご指導を賜りました奈良県立医科大学附属図書館の鈴木孝明様、小児看護学の川上あずさ教授、女性健康・助産学専攻の先生方に心より感謝申し上げます。

なお、本研究は、奈良県立医科大学大学院看護学研究科に 2020 年度提出した修士論文の一部を加筆修正したものである。

文献

- 荒木順子,中田康子,乙崎亜希子他(2015):在胎 36 週以降で低出生体重児を出産した母親の母乳育児への思い 母子同室から 1 ヶ月健診まで.日本看護学会論文集ヘルスプロモーション,45:163-166.
- Fernández Medina, Isabel María, Fernández-Sola, et al. (2019): Barriers to Providing Mother's Own Milk to Extremely Preterm Infants in the NICU. *Advances in Neonatal Care*,19(5):349-360.
- 岩崎雅美,上野邦一(2015):生活文化学の愉しみ—ライフスタイル・こころ・もの・からだ.京都,昭和堂,216-218.
- JBI: "Critical Appraisal Checklist for Qualitative Research".Joanna Briggs Institute.2020.<https://jbi.global/>,(accessed2020-10-23)

- 亀山千里,トーマス京子,門間智子他(2013): 直接授乳困難に陥っている低出生体重児を出産した母親の母乳育児に対する気持ち. 日本看護学会論文集小児看護,43:118-121. 厚生労働省”健やか親子 21(第2次)”.厚生労働省ホームページ. 2015a.
<http://sukoyaka21.jp/>,(accessed2020-10-19)
- 厚生労働省”乳幼児栄養調査”.厚生労働省ホームページ.2015b.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html>,(accessed2020-10-19)
- 厚生労働省:”男性の育児休業取得促進等について”. 厚生労働省ホームページ 2020.<https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000676815.pdf>,(accessed2020-11-24)
- LoVerde B, Falck A, Donohue P et al.(2018): Supports and Barriers to the Provision of Human Milk by Mothers of African American Preterm Infants. *Advances in Neonatal Care*,18(3):179-188.
- 室津史子,今村美幸,重本津多子(2013):超低出生体重児の母親の搾乳量と搾乳中の思い. *医学と生物学*,157(5):603-610.
- 中島千英子,永井由美子(2016):母親の育児情報源としての SNS 利用に関する調査.大阪教育大学紀要第Ⅱ部門(社会科学・生活科学),65(1):1-9.
- 日本新生児看護学会”NICU に入院した新生児のための母乳育児支援ガイドライン”. 2010.<http://shinseijikango.kenkyuukai.jp/images/sys%5Cinformation%5C20111129171724-2DD14C489C3CA9DF61B2B50D756F97E3C3E2E0AD0505DA931B5D2BAEB3844AE0.pdf>,(accessed2020-10-23)
- 西岡初子,臼杵邦枝,山神恭子他(2012):早産児を出産した母親の搾乳に対する思いの分析 NICU での搾乳を試みて.国立病院機
構香川小児病院医学雑誌,11:93-96.
- 岡田佳子, 佐々木睦子(2017):NICU に入院中の早産児で低出生体重児をもつ母親の搾乳継続に対する思い.香川大学看護学雑誌,21(1):13-24.
- 佐々木瑛里(2016):長期搾乳が必要となった母親が入院中から退院後にかけて経験する搾乳への思い.福岡赤十字看護研究会集録,30:16-19.
- 高橋斉子,成田伸(2012):早産児の母親が長期間搾乳を継続する過程で直面する困難と搾乳継続を支えた要因.日本母性看護学会誌,12(1):19-26.
- 田中利枝,永見桂子,盆野元紀他(2014a):早産児を出産した母親の母乳育児をとおした思い.母性衛生,55(1):172-181.
- 田中利枝,永見桂子,和智志げみ他(2014b):早産児を出産した母親が母乳育児を通して母親としての自己を形成していく過程.母性衛生,55(2):405-415.
- 種池咲子,西田千春,東森優子他(2018):早産で出生した長期入院患児の母が断乳を決断する要因.日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション,48:39-42.
- 谷崎望,石田悠里,虎谷早紀子他(2015):超低出生体重児の母親が長期搾乳を継続していく中で抱く思いと継続を支える原動力.日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション,45:159-162.
- 立木歌織,成田伸(2011):Late Preterm 児を出産した母親の授乳や育児に関連する困難と乗り越えるのに影響した要因.日本母性看護学会誌,11(1):59-65.
- 堤美恵,藤本栄子,黒野智子他(2010):NICU に入院した早産児の母親の搾乳の体験.せいいい看護学会誌,1(1):9-16.
- 和田美恵,小林博子(2008):早産児を出産した母親の児への思いと母乳育児への思い.日本看護学会論文集 母性看護,38:41-43.
- Yang Yuanyuan, Brandon Debra, Lu Hong, et al. (2019): Breastfeeding experiences and perspectives on support

among Chinese mothers separated from their hospitalized preterm infants: a qualitative study. *International Breastfeeding Journal*,14:45-51.

山田志枝,佐藤幸子,山口咲奈枝他(2017):わが国における母乳育児確立の概念分析.母性衛生,58(2):470-478.